

たびかさぐうぜん 度重なる偶然

みなさんはたびかさぐうぜんけいけんを経験したことがありますか。ここでは、わたしけいけん私が経験したふしぎたびかさぐうぜんはな不思議な度重なる偶然についてお話しします。

まずは、わたしこどもころはなしははいもうとふたりふたりわかまずは、私が子供の頃の話です。母には妹が二人います。二人ともまだ若かったので、わたしかぞくははいもうとふたりよ私たちは家族は母の妹二人を、Sちゃん、Mちゃんと呼んでいました。ふたりふたりとおすあそき二人ともちょっと遠くに住んでいましたが、ときどきうちに遊びに来てくれました。

こどもいえにんきおもわたしこども子供がいる家では、カレーが人気のあるメニューだと思います。私が子供のころはははつくふしぎ頃、母もときどきカレーを作ってくれました。すると、不思議なことに、カレーをつくひかならずあそくだれれんらくを作った日は必ずSちゃんが遊びに来るのです。誰も連絡はしていないし、Sちゃんからのれんらくにもありません。まるでカレーの匂いが遠くに住んでいるSちゃんのところまでとどなんねんつづひ届いたようでした。それが何年も続いたある日、Sちゃんが言いました。

「このうちはいつもカレーなんだけど、カレーしか食べないの？」

そう言われくらいSちゃん来る日はいつもカレーだったのです。もちろん、わたしかぞくははた私家族はカレーばかり食べていたわけではありません。

そして、ははてんひれんらくとつぜんくそして、母が天ぷらをつくる日は、Mちゃんがやはり連絡なしで突然来るので

した。

「このうちはいつ来ても天ぷらだね。でも、天ぷらは作るのが大変だからありがたいけど」

M ちゃんはそう言って天ぷらをお腹いっぱい食べて帰るのです。

母がカレーを作ると S ちゃん、天ぷらを作ると M ちゃんが来るという偶然が何年も続きました。家族で「今日はカレーだから S ちゃんが来るかもね」と言っていると、本当に S ちゃんが現れるのです。



次の偶然は 5 年ぐらい続いた話です。私が麻酔を使った歯の治療をすると、必ず会う人がいました。知り合いの Y さんです。ふだん偶然会うことは全くないので、麻酔を使った歯の治療をした日はなぜか必ず、Y さんに会います。会う場所も公園、スーパー、お店などいろいろでした。5 年間で 6 回ぐらい会いました。もちろん会った時には少し話をします。その時はいつも麻酔がきいているので、笑うと顔が歪みます。私はそのうち「Y さんは私の顔をそういう顔だと思っているんじゃないかしら？」と心配になってしまいました。でも、8 年ぐらい前から、Y さんには会わなくなりました。そういえば、この 8 年ぐらい私は麻酔を使った歯の治療をしていません。だからでしょうか？

今度は最近の話です。両親と住んでいる家の隣には、4階建ての駐輪場があります。そのオーナーはちょっと遠くに住んでいるため、年に数回しか様子を見に来ません。駐輪場には小さな植え込みがあって、オーナーに代わって、私たちがその草花の世話をしています。オーナーもとても喜んでくれます。水をやったり、伸びたつるや枝を切りそろえたりする簡単な作業です。でも、春や夏は草木がぐんぐん成長するので、ちょっと世話をしないですと、つるがからまってジャングルのようになってしまいます。でも、私たちが長い間、家を留守にして、草木を切ることができない時があります。そしてそのオーナーが様子を見に来る時は、いつも植え込みがジャングルのようになっている時なのです。今年も長い旅行から戻ってくると、やはり、植え込みはジャングルのようになっていました。旅行から帰ってきた夜に、「こんな時に限ってオーナーさんが来るんだよね」と家族と冗談を言っていたら、本当にオーナーが来たのです。旅行から戻って2日目のことでした。

最後は、起こってほしくない偶然です。それは叔母といると、よく大きな地震があることです。2011年3月11日、叔母が東京にある私の家に来ていました。その時にマグニチュード9.0の東日本大震災が起こったのです。地球が割れると思ったぐらい大きくて長い揺れでした。それが最初の偶然だったのかもしれませんが。

しばらくして、叔母は東京の家から伊豆に引っ越しました。海と山に囲まれ

おか うえ いえ たびかさ ぐうぜん
た丘の上にある家です。それから度重なる偶然

つづ わたし お ば いえ あそ い
が続きました。私が叔母の家に遊びに行くたび

に、日本や世界で大きな地震が起こったのです。

ある夏、お ば うみ およ とき きゅうしゅう
ある夏、叔母と海で泳いでいる時に、九州で

マグニチュード 7.1 の地震が発生しました。そ

んなことはまったく知らず、夕食前の泳ぎを

たの 楽しんでいました。家に戻ってテレビを見ると、太平洋側では津波警報が出され

ていました。泳いでいるときに津波がきていたらと思ったら、背筋が凍る思いで

した。そしてその次の日の夜、ズドン！という大きな揺れを感じました。家が丘

から数センチ滑り落ちたかと思いました。

つぎ なつ お ば あそ い わたし あさはや ひ とり うみ さん
次の夏もまた、叔母のところへ遊びに行きました。私は朝早く一人で海へ散

歩に出かけました。海は坂を 1 キロほど下ったところにあります。その日は叔母

が海沿いの道まで私を迎えにきてくれる予定でした。待ち合わせの時間は 8 時

25 分でした。初め私は散歩だけするつもりでした。でも、とてもいい天気で気持

ちがよかったので、服を着たまま泳ぎ始めました。でも、濡れた服で車に乗る

のは悪いと思ったので、早めに、8 時すぎに海から上がり、海辺で陽に当たって

服を乾かしていました。8 時 20 分すぎに叔母の車に乗り、丘の上の家まで戻り

ました。車をガレージにとめ、そこから階段を 15 段ぐらい上がって家に入り

ます。階段を登っている時、丘のサイレンが鳴り響きました。何だろうと気にな

っていると、すぐにアナウンスが流れました。



「津波警報です。すぐに高台に避難してください」

急いでニュースを見ると、8時24分にロシアのカムチャツカ半島でマグニチュード 8.7 の地震があって、北海道と本州太平洋側に津波警報がでたということでした。この時も背筋がゾッとしました。

でも、この嫌な偶然はこれで終わりのようです。今年も叔母の家に行ったのですが、滞在中に大きな地震はありませんでした。実は叔母の家に行くたびに「今回は地震があるかな？」とちょっとドキドキしていたのです。こんなうれしくない偶然はもう起こらないでほしいです。

みなさんは、このような不思議な度重なる偶然を経験したことがありますか。

(2433字)

(2026.10 Written by Mami TANAKA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.